教育委員会コラム Vol.6

教育長室の窓から

ＡＩとの対話

本町には、小規模校がいくつかありますが、実は、小規模校の教育が、子どもの学びの転換、教員の子ども観の転換、ひいては学びの変革に繋がります。現在のＩＣＴ技術といった学習環境は、地域間格差を一気に最小限にしました。柔軟性・スピード感という魅力がある小規模校が、まさに変革のトップランナーになれます。

ところで、過日、本町の岸良学園で、生成ＡＩ（ＣｈａｔＧＰＴ）を活用した授業が行われました。９年生社会科「自分の考えを推敲して論を組み立てる」授業でした。小規模校では、対話的な学習が限定的になりがちです。そこで、①学習したことをもとに、自分の考えを文章化する。②ＣｈａｔＧＰＴに意見を求める。③自分の考えを練り上げるという内容で、教師は、適宜アドバイスするだけの生徒主体の授業でした。ＡＩは、万能ではなく、全てが正解というものではありませんが、今回の授業では「これは正解ではなく、第三者の意見の一つ」として活用することで、生徒の対話が生まれました。

令和６年度後半の本町の教育は、デジタルとアナログの一体化を図ったものとなります。デジタルでは、民間を活用したプログラミング教育を町内全中学校の技術で行います。また、ＡＩ教材（キュビナ）を活用した授業をモデル的に町内小学校２校で行います。さらに、学習者用デジタル教科書の活用を町内５年生以上の英語で活用します。アナログでは、基礎基本の確実な定着に向け、「めあて」と「振り返り」をしっかり押さえた授業を町内小・中・義務教育学校のどの教室でも具現します。さらに地域素材を生かした体験活動の充実です。

このようなハイブリットな学びの構築が、本町の学校教育にとって必要かと考えています。

教育長のちょっといい話

語先後礼（ごせんごれい）

語先後礼ってご存知でしょうか。

私も、常日頃から心がけていますが、恥ずかしながらできないことがほとんどです。

ところで、高山中学校には、この語先後礼が掲げられており、子どもたちが実践していますが、朝、立哨していると、「立ち止まって一礼」そして挨拶する子が多くなってきました。あらためて本町の学校教育の素晴らしさを感じています。

語先後礼は、「言葉を先に、礼を後に」という意味で、挨拶をする際に相手に対して向き合って挨拶の言葉を発してからお辞儀をするという動作です。例えば「おはようございます」「よろしくお願いします」といった挨拶の際に、この動作を同時に行うと、礼をしながら言葉を発してしまうために相手を見ずに地面を向いた状態で挨拶をしてしまいます。語先後礼は、「分離礼（言葉と礼を分ける）」とも言われ、接客などの仕事では、必須とも言える挨拶の基本と言われています。

私たちが生活する上で欠かせない基本的生活習慣です。学校のみならず家庭においても、語先後礼を行ってみてはいかがでしょうか。